

情報公開文書

研究の名称	任意型検診で診断された胃癌の特徴と患者因子の検討
研究代表機関	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・職名および氏名)	富山大学附属病院第三内科 助教 島田清太郎
①試料・情報の利用目的 及び利用方法(他の機関 へ提供される場合はその 方法を含む。)	<p>この研究は富山大学臨床・疫学研究等に関する倫理審査委員会の承認および研究機関の長の許可を受けて実施しています。</p> <p>【研究の目的・方法】 本邦の自治体などが行う「対策型検診」によって多くの胃がんが診断されますが、2016年に新しい検査方法が導入された後も、胃がんで亡くなる人の割合は思うように減っていません。自分から進んで受ける人間ドックは、健康への意識が高い人が受ける傾向にあり、この任意型検診で見つかった胃がんにはどのような特徴があり、どんな人が受けているのかを詳しく調べることにしました。この結果がわかれば、これからの日本全体の胃がん対策をより良くするためのヒントになると考えています。</p> <p>2021年1月から2024年12月までの間に、胃がんと診断された患者さんのデータを集めます。その中から、今回の研究にふさわしい条件に合う人を選んで登録します。その際、患者さんの名前や住所などの個人が特定できる情報は一切使いません。代わりに専用の番号を割り振ることで、「誰の情報か」がすぐにはわからないように工夫し、個人の秘密が漏れないよう厳重に管理して研究を行います。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2026年12月31日</p> <p>【研究対象者】 2021年1月1日から2024年12月31日の期間に富山医師会健康管理センターで胃腺腫または胃癌と診断された症例</p> <p>【研究資金、利益相反の状況】 当研究の研究資金は富山大学附属病院第三内科の医局・講座費です。利益相反はありません。</p> <p>【個人情報の取扱い】 診療録調査の結果は第三内科のセキュリティのある本棚において保管されます。診療録調査は診療情報システム(電子カルテ)、紙カルテからのデータ収集のみで行われ、調査票または質問票などによる患者本人への新たな調査は行いません。</p> <p>【研究結果の公表の方法】 結果の如何に関わらず、研究成果は公表し、学会発表および英文誌への論文投稿を行います。この際に個人のプライバシー保護には十分な注意を払って、個人の特定につながる情報は公表しません。</p> <p>【試料・情報の他機関への提供有無】 有</p>

	<p>【外国にある者への提供について】 該当なし</p>
②利用又は提供する試料・情報の項目	<p>【試料・情報の項目】 診療録より以下の情報を使用します。年齢、性別、ピロリ菌現感染の有無、ピロリ菌除菌歴、喫煙・飲酒の詳細、既往症、背景粘膜、過去の内視鏡歴、胃癌の特徴(肉眼型、深達度、組織型、サイズ)</p>
③利用又は提供を開始する予定日	<p>【利用又は提供を開始する予定日】 2026年1月20日</p>
④試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名	富山市医師会健康管理センター 所長 船坂 雅春
⑤提供する試料・情報の取得の方法	<p>共同研究機関の研究責任者が、富山大学附属病院の倫理審査委員会で中央一括審査で承認された計画に基づき、過去の診療記録から本研究に必要なデータを抽出する。その際、提供元施設において、氏名やカルテ番号等の個人を特定できる情報を削除し、代わりに各施設で定義された研究用IDを付与する「他の情報と照合しなければ個人を識別できないよう加工」を施した上で、研究データとして提供を受ける。</p> <p>情報の提供方法については、提供元施設において匿名化が完了した紙媒体の資料を、研究責任者が受領し当院へ持参する。</p>
⑥利用する者の範囲	富山大学附属病院 第三内科 助教 島田清太郎 富山市医師会健康管理センター 所長 船坂雅春
⑦試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	富山大学 学長 齋藤滋
⑧研究対象者等の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する旨	<p>研究対象者に関する試料・情報を当該研究に用いること（他の研究期間への提供も含む。）に対して、拒否をご希望される場合や研究資料（研究計画書及び研究の方法に関する資料）を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲で入手・閲覧を希望される場合は、以下の窓口へご連絡ください。</p> <p>電話番号：076-434-7301 E-mail：sshimada@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名：第三内科 島田清太郎</p>